

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：平成 29～令和 4 年度)

代表機関：広島大学（総括責任者：越智 光夫）

共同実施機関：マツダ株式会社、デルタ工業株式会社、国際開発センター

## 取組の概要

広島大学では、平成18年時点の在職者に占める女性教員比率は9.0%であったが、文部科学省支援事業を通して改善に努め、平成28年10月1日時点には同比率が15.7%まで改善した。こうした達成状況から更なる発展を目指し、広島大学は牽引型事業の代表機関として、地域ものづくり企業及び国際協力シンクタンクと連携して、「地域に根付く」と「国際的視野を持つ」をキーワードに、最先端の研究課題にチャレンジする工学系女性研究者の育成に専心する。

4実施機関がそれぞれの持ち味とリソースを活かしながら、①啓発と意識改革、制度整備と活用等、ダイバーシティ研究環境整備の促進、②共同研究講座や海外での調査研究等による女性研究者の研究力向上とリーダー育成、③女性研究者の積極採用と上位職登用のポジティブアクションの効果的実施、④ダイバーシティ・インクルージョン研究を踏まえたダイバーシティ研究環境実現モデル開発と発信、の4つの取組を展開する。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	s	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

広島地域の中心的な教育研究拠点である代表機関、地域の代表的なものづくり企業2社、国際協力が携わるシンクタンクが連携して、国際的に活躍できる自然科学系の女性研究者・技術者の育成に取り組んだ。米国大学の好事例を踏まえ先駆的な仕組みを構築するとともに、連携機関に留まらず地域の企業、教育研究機関、自治体等の39機関が参画する「産学官ダイバーシティ推進協議会」を創設し、優れた仕組みや取組を地域に普及させたことは先進的な牽引型のモデルとして評価できる。連携機関のいずれにおいても、任期を付さない職に就く女性研究者・技術者が着実に増加した。特に代表機関においては、「全学人事委員会」を設置し教員人事を一元化し女性の登用を推進することにより、自然科学系の上位職女性教員（教授、准教授）数が大幅に増加したことは評価できる。今後は取組を更に発展させることにより、意欲的な最終目標を確実に達成することを期待する。

- ・ **目標達成度**：連携機関はともに、目標の達成に向け概ね順調に取組を進めており、最終目標の達成が見込まれ評価できる。代表機関においては上位職女性教員数が大幅に増加したものの、上位職女性割合20%という意欲的な最終目標の達成に向け取組を更に充実させることを期待する。
- ・ **取組**：代表機関が中心となり「産学官ダイバーシティ推進協議会」を創設し、研究環境整備、

研究力向上とリーダー育成、採用と上位職登用、モデル開発という4つのタスクフォースを軸に39の参画機関が意欲的に事業に取り組んだことは高く評価できる。代表機関においては、既存の「女性限定公募」、「女性教員ポストアップ」を継続的に実施するとともに、「特別研究員制度」に女性枠を設置し、また、39の参画機関に所属する女性研究者・技術者のキャリア再開支援として、大学院博士課程後期合格者の入学料不徴収の制度を創設したことは高く評価できる。さらに、海外の先進的な大学の取組事例を調査し、国内のみならず海外の好事例にも目を向けていることは高く評価できる。

- **取組の成果**：代表機関においては、学長のリーダーシップの下、全学の教員人事を一元化し、教員人事計画の中に女性採用枠、ポストアップ枠を設定することにより、教員人事の1割以上を「女性限定公募」とし、「女性教員ポストアップ」を活用して18名の女性教員の昇任を実現した。また、取組に注目した海外の財団から寄付を獲得しており評価できる。共同実施機関においては、女性幹部の育成、女性従業員の雇用増加といった成果が挙げられたことは評価できる。
- **実施体制**：連携機関を軸とし、「産学官ダイバーシティ推進協議会」を通じて地域の女性研究者・技術者の活躍促進を図る明確な実施体制を構築したことは評価できる。また、代表機関においては、「全学人事委員会」の設置を通じ、女性の登用を推進する体制を構築したことは評価できる。
- **今後の進め方**：補助期間終了後は一定の自主経費を確保しこれまでの取組を継続するとともに、寄付講座や共同研究等の連携活動を活性化し、持続性の高い活動を展開する計画であり評価できる。また、「産学官ダイバーシティ推進協議会」への参画機関を増やし、地域における協働体制を強化する計画であり、地域への波及効果が更に高まることが期待される。さらに、中国・四国地域における女性研究者・技術者の育成、女性研究者の裾野拡大を図るため、女性研究候補者のプール形成を計画しておりその実現を期待する。